

# 04



## 骨髓増殖性腫瘍の 遺伝子解析



検査部 遺伝子検査室  
臨床検査技師

佐々井 麻衣

検査部 遺伝子検査室  
臨床検査技師

森重 彰博

検査部 遺伝子検査室  
臨床検査技師

児玉 雅季

検査部 遺伝子検査室  
臨床検査技師

岡山 直子

検査部 遺伝子検査室  
臨床検査技師

國宗 勇希

大学院医学系研究科病態検査学講座

教授 湯尻 俊昭

こつずいぞうしよくせいしゅよう

### 骨髓増殖性腫瘍とは

血液がんの一種。骨髓中にある血液細胞を作る源の細胞(幹細胞)に異常をきたし、だるさやかゆみ、お腹の不快感などの症状がでる。かつては原因不明であったが、近年その病気の遺伝子異常がわかり、検査方法や治療方法の研究が進められている。



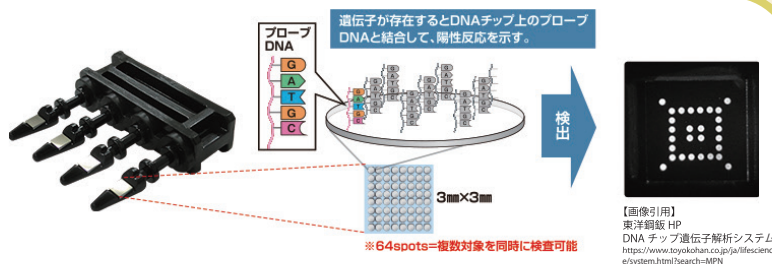
## Q. 骨髄増殖性腫瘍（MPN）の遺伝子解析とは？

骨髄増殖性腫瘍の診断をするためには遺伝子解析（血液検査）を行う必要がありますが、現在はJAK2 V617F 変異という検査は保険適応が認められていますが、他の遺伝子変異の検査は認められていません。診断までに複数の検査を行うため、時間がかかり検査費用も高額になってきます。

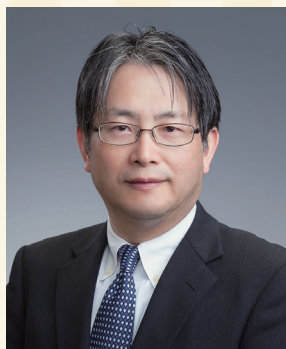
### 湯尻先生の研究

2020年2月に東洋鋼鉄株式会社との共同で新しい遺伝子診断法「MPNチップ」というキットを開発しました。

このキットによって少量の血液のみで複数の遺伝子変異が同時に検査可能となり、診断にかかる時間と費用を大幅に削減することができるようになりました。現在、臨床検査会社大手のSRL社に採用されて検査が可能となっています。現在も山口県内8施設の病院と協力し、遺伝子解析を行っています。既に500例以上の解析を行っており、さらに精度の高い遺伝子解析技術の開発を山口大学医学部附属病院検査部と協力して行っています。



## Q. 2030年、この研究はどうなっていると思いますか？



山口大学大学院  
医学系研究科（保健学専攻）  
病態検査学講座  
教授 湯尻 俊昭

「MPNチップ」については既に特許の出願（国内・国際）もしているため、近いうちに登録されるのではないかと思います。近い将来にはこの検査が保険適応となることが目標です。より多くの患者さんに検査を受けてもらえるようになり、病気の早期診断や適切な治療に繋がっていくことを望んでいます。

ほかにもいろいろな病気の遺伝子異常がこのような「遺伝子チップ」で検査できるように開発していきたいと思っています。

### これが私のパワーの源 ランニング

現在はコロナの影響もありなかなか難しいですが、職場の仲間とリレーマラソンにも出場していました。スポーツをすることも観ることも好きです。



病態検査学講座に  
ついてはこちら